

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

|      |                     |     |       |           |   |
|------|---------------------|-----|-------|-----------|---|
| 法人名  | 社会福祉法人 博愛福祉会        | 代表者 | 大西 弘文 | 法人・事業所の特徴 | ①「日の出医療福祉グループ」の介護サービス事業所です<br>②地域医療との連携をはかり、通い慣れた病院を利用できます<br>③多種多様なサービスからご自身に合ったサービスの提供を提案します<br>④専属のケアマネージャーが必要に応じて「通い」「泊まり」「訪問」サービスを組み立てます(24時間365日)<br>⑤地域との関わりを継続する支援をおこないます |
| 事業所名 | 小規模多機能型居宅介護 ゆとり庵 西条 | 管理者 | 川端 洋一 |           |   |

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|----|
|     | 1人    | 人        | 2人        | 1人  | 人     | 1人         | 人     | 1人    | 人   | 6人 |

| 項目                      | 前回の改善計画  | 前回の改善計画に対する取組み・結果   | 意見  | 今回の改善計画  |
|-------------------------|--|---|---|--|
| A. 事業所自己評価の確認           | 継続した感染予防を行いながら、ご利用者様の望む暮らしを実現できるように個別ケアの充実を図る。                               | ご利用者様やご家族様とコミュニケーションを取ることで、望む暮らしについて聞き取りは実施できつつあるが、職員間での共有や実施に向けて取り組みが今後の課題。          | 自ら意思疎通が難しい方へのアプローチ方法の検討や以前のくらしの聞き取りを行い、地域でくらし続けられるように取り組んで頂きたい。                   | 利用者様の望む暮らしを実現できるよう、聞き取りを充実させ、実現に向け知識や技術、職員間の共有と連携を図る。                  |
| B. 事業所のしつらえ・環境          | 事業所が開設し、約8年が経過しており、設備の保守点検を行い、安全かつ居心地の良い環境作りを行う。                             | 都度、修繕が必要な箇所については修繕を行い、設備環境面からも過ごしやすい環境作りを行った。   | ・コロナ禍のため、運営推進会議が開催されておらず、状況が分からない。<br>・開設8年が経過しているが、きれいにされていると思う。安全点検も続けてもらいたい。   | 継続した感染予防の徹底を行い、事業所内での感染拡大を防ぐ。  |
| C. 事業所と地域のかかわり          | 継続した感染予防を行いながら、参加可能な地域行事やイベントに参加し、地域との繋がりをもち、事業所のことを知っていただく。                 | 事業所として、地域イベントへの参加はできなかったが、加古川北ささえあい協議会に参加することで、地域住民との交流の機会を持つことができた。                  | ・地域にゆとり庵西条という施設があるのは認知されているが、どのような施設かまでは分からないと思う。<br>・参加できそうな小さなイベントから参加してみてもどうか。 | 地域で開催されているイベントを把握し、参加可能なイベントに利用者様と一緒に参加することで、地域住民との定期的な繋がりを維持できるようにする。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | ご本人・ご家族様のご意向を継続して確認し、適切な社会資源に繋げ、馴染みのある地域で暮らし続けられるように支援する。                    | ご利用者様を個別で地域の体操教室へ繋ぐことはできた。今後、望む生活の聞き取りを充実させ、実現に向けて取り組むことが課題。                          | コロナ禍ではあるものの、少しずつイベントを開催している。自由参加のイベントもあるので参加してみてもどうか。                             | ご本人やご家族様のご意向を都度確認し、適時必要な社会資源に繋ぐことで、住み慣れた地域でくらし続けられるように支援する。            |
| E. 運営推進会議を活かした取組み       | 感染状況を考慮しつつ、運営推進会議の開催を図り、事業所の運営状況や地域課題などについて共有し、課題解決に向け協働する。                  | 今年度の第4回目(R4.11.29)より集合形式での運営推進会議を開催することができた。今後も定期的に開催できるよう工夫していく。                     | ・コロナ禍で会議が開催されなかったことで取り組み状況が分からない。<br>・コロナ禍であっても感染予防を行いながら定期的に開催できる工夫が必要だと思います。    | 感染予防を行いつつ、できる限り定期的に運営推進会議を開催し、事業所の運営状況や地域課題などについて共有し、課題解決に向けて協働する。     |
| F. 事業所の防災・災害対策          | ・防災訓練に参加できていない職員についても、緊急時の対応や連携について周知徹底を行う。<br>・災害発生時に備えた、防災用品や備蓄の定期的な管理を行う。 | ・今年度は、R4.10.27に1回目の防災訓練実施。不参加職員への対応・連携方法について周知を行った。<br>・備蓄については、食品関連の備蓄が不十分なため、今後の課題。 | 防災訓練では、以前のように地域の方に参加してもらってはどうか。   | 以前のように、地域住民の方にも防災・災害訓練に参加して頂き、災害や火災が発生した際の行動を全体で確認し合う。                 |